



地域政党

兵庫むすびの党

むすび新聞



第2号

発行

令和5年10月1日

NHK全国ニュースで報道されました

ワクチン後遺症 患者救済のため 国・ファイザーと戦います！

1 国内第一号の“ワクチン後遺症”訴訟

私は、去る9月20日、ワクチン接種後約2年にわたり動悸・息切れ等の後遺症に苦しむ40代の女性とその夫の代理人として、国が安全性を欠くワクチンを違法に推進したことなどを理由に、国、ファイザー等を相手取って6100万円余りの損害賠償請求訴訟を東京地方裁判所に提起しました。

提訴後、裁判所内で記者会見を開き、その模様は同日午後5時のNHK全国ニュースで報道されました。今回の訴訟は、ワクチン後遺症の国家賠償請求訴訟としては実質的な国内第一号とみられます。なお、私はすでに、ワクチン死の遺族の代理人として国家賠償請求訴訟を福岡地方裁判所小倉支部に提起しています（令和5年5月23日付け）。



全国ニュースで報道された記者会見の様（一番左が木原）
NHK総合「ゆう5時」ニュース（令和5年9月20日放送）より

2 世間から理解してもらえない”ワクチン後遺症”

今回のワクチン後遺症訴訟で原告となった女性（40代）は、令和3年9月に第一回目のワクチン（ファイザー社製）を接種した後、10分も経たない間に立てなくなり、それから約2カ月間寝たきりの状態でした。総合病院に行っても診療科をたらい回しにされ、各医師からことごとく「治療法がない」と言われる始末でした。

そして、接種から2年経過した現在でも動悸・息切れが続き、上り坂や階段では休みを入れずには登り切れず、家事や長女の育児も満足にすることができないほか、顔面の神経麻痺、左眼のかすみなどに悩まされています。

ところで、国はワクチン接種後の死亡・後遺症の遺族・患者に死亡一時金、医療費等を支払う“予防接種救済制度”を設けていますが、令和5年9月27日時点で申請が受理されたのは8,957件で、うち認定4,520件（うち死亡269件、後遺障害11件）、否認644件、審査待ち3,793件であり、今回の女性も令和5年5月に“ワクチン接種との因果関係が否定できない”として認定が下りました。しかし、実際に支給されたのは医療費（自己負担）及び医療手当（通院回数に応じて月数万円程度）にすぎず、真の救済には程遠いものです。

そもそも、接種後の重篤な副作用に対する治療法が確立されていないのに、国は、9月20日からオミクロン株の変形とされるXBB1.5対応ワクチンと称するワクチン接種を開始しましたが、これは「トイレのないマンションに強制移住させている」ようなもので、副作用への手当ができる状態を整えてから接種を再開すべきではないでしょうか。 …【裏面に続く】



ワクチン後遺症に苦しむ50代女性（高校教諭・兵庫県内在住）
サンテレビ「キャッチ+」（令和5年5月10日放送）より

【表面からの続き】

3 今後の方針

私は、国の“イケイケどンドン”のワクチン推進行政を転換させるには、国及び製薬会社に対する国家賠償（損害賠償）請求訴訟を多数提起し、国の過失（ワクチンの特例承認が違法であること等）が司法によって認定されるまでは解決しないと考えています。過去の例として、昭和47年に提起された予防接種禍東京訴訟では、平成4年に東京高裁が国の過失を認める判決を出したことを契機に、平成6年の予防接種法改正がなされてワクチンの“接種義務”が“接種努力義務”に格下げされました。そうした成果を勝ち取るまで、被害者に寄り添いながら長い道のりを歩んでまいります。

また、私は、ワクチン問題が本質的に政治問題であることに鑑み、令和3年10月の衆院選（兵庫1区）で「ワクチン中止」を、令和4年7月の参院選（兵庫県）で「ワクチン被害者救済」それぞれ公約に掲げて選挙戦を戦ったのですから、来るべき衆院選では「答え合わせ」ができるよう、政治活動にも誠実に取り組んでまいります。

11月4日（土）に神戸市内で児相問題シンポジウムを開きます

児童相談所の真実 について赤裸々にお話しします！

1 児童を”利権”の種にする児相の実態

行政事件にも積極的に取り組む“政治家弁護士”の私は、児童相談所が違法に連れ去った児童の保護者からの依頼を受けて、児童の身柄取り戻しのための裁判を数多く戦っています。

児相は「親から虐待された児童を保護する行政機関」と称していますが、その実態は、必要性のない一時保護により、通常なら1カ月程度、長いものになると10年以上親子を隔離し、その間、親子間の面会通信を全面制限するケースも少なくありません（人質児相）。

さらに、一時保護された児童が家に帰りたくと施設中で騒ぐと、児相がお抱えの精神科医師に依頼して、依存性の高い向精神薬（パキシル、エビリファイなど）を繰り返し投与しておとなしくさせることがあり、こうした“薬漬け行政”の結果、帰宅後に“禁断症状”に苦しむ児童が後を絶えません。

このような残酷な“人質児相”行政の本質的な原因は、令和5年4月発足の“こども家庭庁”を中心に厚労省、児童養護施設、児相お抱えの（精神科）医師・弁護士・NPOなどが過剰な一時保護を推進して児相予算を獲得し、“児相利権”を拡大させるからであり、必ずメスを入れなければなりません。

2 児相問題に取り組む政治家らの集結

国政政党の大半が“人質児相”を容認する立場であるため、児相問題に取り組む政治家は決して多くはないものの、真剣に取り組む府県議会議員、市議会議員、弁護士などを招いてシンポジウムを開催する予定ですので、ぜひお越しください！

日時 令和5年11月4日（土）14:00～16:30（13:30開場）

場所 神戸市立総合福祉センター 第5会議室（神戸市中央区橘通3-4-1、神戸高速鉄道高速神戸駅徒歩3分）

参加費無料、予約制（TEL：078-855-4014）



幸せな家族を引き裂く“人質児相”

“人質児相”問題を報じる関西テレビ「報道ランナー」（令和5年6月29日放送）

児童相談所問題等対策協議会 主催

児童相談所の真実を語る会

児相問題とは？

児童虐待に関するニュース報道を機に、児童相談所の存在を知った方も多くのご様子。しかし、児相内での暴力、監禁、薬漬けの問題をご存じでしょうか？

子どもを守るはずの児相による残酷な管理の実態を知る政治家・弁護士のほか、当事者となった保護者・（元）児童の皆さんにお話しいただく勉強会です。

189（いちちやく）のその先にあるのは…ぜひ皆さんの目と耳で確かめてください。

※189（いちちやく）：児相直連電話

11月4日児相問題シンポジウムの告知ビラ（抜粋）

兵庫むすびの党 代表 弁護士 ^{くにや}木原功仁哉 39歳

【事務所】〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町3-15-15
グランディア住吉駅前4階西号室（JR住吉駅南へ徒歩3分）
電話 078-855-4014 E-mail info@kiharakuniya.com
X（旧Twitter）https://twitter.com/kiharakuniya

経歴 昭和59年神戸市生まれ、神戸市立御影北小学校、滝川中・高等学校、京都大学工学部物理工学科、大阪市立大学法科大学院各卒業、平成27年弁護士登録（東京弁護士会）、令和3年に高齢になりつつあった母が入院したことを機に神戸に帰省を決意。同年6月独立開業、同年10月の衆院選（兵庫1区）、令和4年7月の参院選（兵庫）にそれぞれ無所属で立候補。令和5年4月の神戸市議選（東灘区）では無所属で4386票を得たものの共産党候補に166票差での次点。この落選を機に、さらに精力的に活動中！

毎月第1・第3土曜日は事務所で交流会を行っています（11:00～13:30）。ぜひ遊びに来てください！

